

マンションで備える防災対策

～日頃の備えと在宅避難のススメ～



耐震基準を満たしたマンションは、被害が軽微であれば在宅避難が可能となります。在宅避難を継続するためには、各家庭とマンション全体での備えが必要です。

マンション特有の被害



上層階の揺れ

一般的に、上層階の方が下層階より大きく、ゆっくり、長く揺れます。

共用部分の破損

激しい揺れがあると、玄関ドア枠の変形、窓ガラスの破損が発生します。

給排水設備の破損

地震によって、建物内部を通る配管や受水槽が破損すると、断水したり、排水ができなくなったりします。

衛生上の問題

市のゴミ収集が数日停止した場合、ごみ集積所の異臭や衛生上の問題が発生することも想定されます。

停電の影響

停電すると、エレベーターやエントランスのオートロック機能などが使用できなくなる可能性があります。

その他

普段から居住者同士のコミュニケーションが希薄であると、いざという時の協力や助け合いが難しくなります。



わが家の防災度チェック

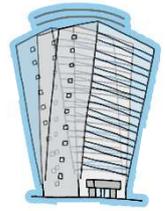
- 家具の固定をしている
- 3日分以上の水(1人1日3L)・食料を備蓄している
- 3日分以上の携帯トイレ(1人1日5回)を準備している
- 避難経路を確認している
- 家族との連絡方法を決めている

地震発生で起こること



長周期地震動ってなに？

揺れの周期が長い長周期地震動が発生すると、高いマンションをゆっくり大きくゆらします。10分以上揺れる場合もあります。



地震！その時マンションは？

長周期地震動による大きな揺れにより、家具等が倒れたり、落ちたり、大きく移動したりする危険があります。

加えて、天井の落下、スプリンクラーの故障、エレベーターの障害などが想定されます。



とるべき行動



各家庭で…

まずは自分と家族の身を守る

家具の転倒から身を守りましょう。

エレベーターでは、すべての階の行先ボタンを押し、止まった階で降りましょう。

自分の無事を知らせ、隣近所の安否確認を行う

マンション内のルールに従い、支援を必要とする人がいる住戸には、声かけをして無事を確認しましょう。

部屋にとどまるか外部に避難するかを考える

耐震基準を満たしたマンションは倒壊の危険性が低く、在宅避難が可能となります。

居住者みんなで…

共用部分の安全確認

管理組合や防災担当者を中心に、廊下や階段、エントランスなど共用部分の被害状況を確認します。火災やガス漏れなど異常を見つけた場合は、すぐに消防や管理者へ連絡します。

情報を共有し、落ち着いて行動

建物の被害状況や避難の必要性などの状況を、居住者同士で共有します。不確かな情報に惑わされず、管理組合や自治体の情報を確認して行動しましょう。



災害対専用スペースを活用する

居住者が共同で作業できるスペースを活用し、情報の集約拠点や、支援物資の仕分け場所に使用しましょう。

共同で作業分担する

支援を必要とする人への声かけや、清掃、防犯見回りなど、居住者同士で分担して対応しましょう。



避難所と連携する

最寄りの避難所に、在宅避難者数や情報伝達の方法などを連絡しておき、地域と連携しましょう。

在宅避難で気をつけたいこと



トイレは流さない

上の階の居住者が配水管の損傷に気が付かずにトイレを使用すると、下の階で汚水があふれ出るおそれがあります。

配水管の復旧が確認できるまでトイレは流さず、簡易トイレ、携帯トイレを使用します。

こんなトイレを準備しよう 

簡易トイレ

持ち運び可能な便座のある小型トイレで、携帯トイレとセットで使う

携帯トイレ

袋と凝固剤のセットで、断水した洋式トイレや簡易トイレにつけて使う

エレベーターは使用しない

故障・停電などで緊急停止し、閉じ込め被害にあう可能性があるため、点検が終わるまでは非常階段を利用します。万が一、閉じ込められたらインターホンで連絡をとり、救助を待ちます。

屋外には飛び出さない

マンションから慌てて飛び出すと、上階から窓ガラス等の落下物の可能性があります。ケガをする危険性があります。



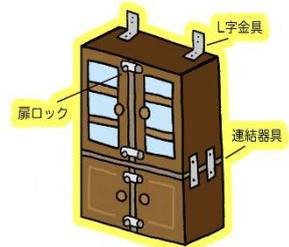
各家庭でできる防災対策(自助)



室内の安全対策

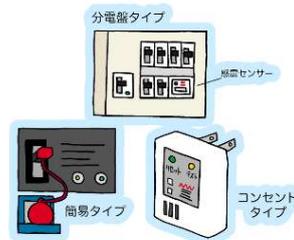
家具を固定する

テレビはなるべく低い位置に、ビスや粘着マットで固定
食器棚はつっぱり棒や扉開き防止ストッパーで固定
冷蔵庫はベルト式器具で壁に固定



避難経路の確保

転倒してドアをふさぐ所に家具は置かない
共用スペースに障害物を置かない



地震による火災を防ぐ

感震ブレーカー等による備え

賃貸マンションでは



家具の転倒防止対策の際、固定方法等が制約されることもあります。管理会社等へ確認のうえ対応しましょう。

また、管理組合等がない場合でも、災害応急対応は居住者自身が行わなければなりません。管理会社を中心に連絡体制を構築することに加え、日頃からのあいさつを通じ、隣近所と顔の見える関係を築きましょう。

飲料水や食料品の備蓄

世帯分の飲料水・食料品を最低3日分(推奨1週間分)準備して、ローリングストック(循環備蓄)方式も併用しましょう。





簡易トイレの活用

トイレが使用できなくなる可能性があるため、簡易トイレや携帯トイレを備蓄しましょう。排泄後のゴミの排出は、事前にマンション内でルールを決めておきましょう。

ルールの例 二重袋+防臭袋で密封し、直射日光を避けて各戸で一時保管する など

避難方法の確認

エレベーターを使用しない避難を想定し、蹴破り戸を破っての避難や、避難ハッチの場所や操作手順を確認しておきましょう。



伝言の録音方法

171 にダイヤル

音声ガイダンスが流れる

録音の場合 1

音声ガイダンスが流れる

被災地の人の電話番号を入力

0000 0000 0000

伝言再生方法

171 にダイヤル

音声ガイダンスが流れる

再生の場合 2

音声ガイダンスが流れる

被災地の人の電話番号を入力

0000 0000 0000

災害時の情報収集・連絡方法

災害時は電話が通じにくくなるため、安否等の情報を音声で登録・確認できる災害用伝言ダイヤル(171)の使い方や、情報収集の方法を確認しておきましょう。

マンション全体での備え(共助)



備蓄ボックスの設置

エレベーター内に防災用品を入れた備蓄ボックスを設置しておく、エレベーター内に閉じ込められたときに安心です。



地震保険の活用

通常の火災保険では補償されない地震による火災や建物の損壊をカバーする保険です。地震保険を活用して財産被害に備えましょう。

防災用備品の備蓄

マンションの居住者が協力して、個人では準備することが難しい物品を購入・備蓄しておきましょう。

マンション内のルールの制定

マンションの居住者が適切に行動できるように、震災時の活動の流れやルールのマニュアルを事前に作成しておきましょう。



管理組合や自治会の役割分担

管理組合や居住者で、災害時にどのような役割を担うか話し合しましょう。

防災訓練の実施

防災訓練は、居住者の防災意識を高めるとともに、交流を深めるよい機会となります。また、地域の防災訓練にも参加しましょう。

こんな役割を決めておこう

対策本部、情報班、物資備蓄班、安全班、救出救護班 など

こんな訓練をしておこう

消火訓練、安否確認訓練、救出救護訓練、炊き出し訓練など

